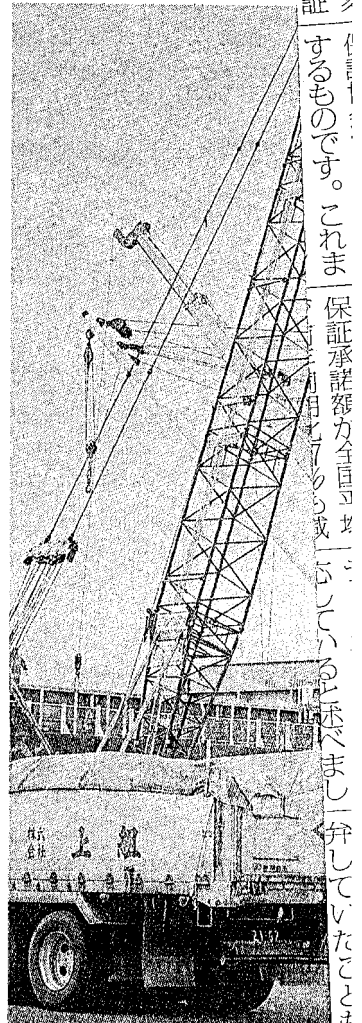


輸入



汚染米事件にこりずに陸揚
ニマムアクセス米＝18日、

不正 「極」

紙智子参院議員の話
有識者会議の報告書

は、明確
きま
を極
る「
され
明が
念で



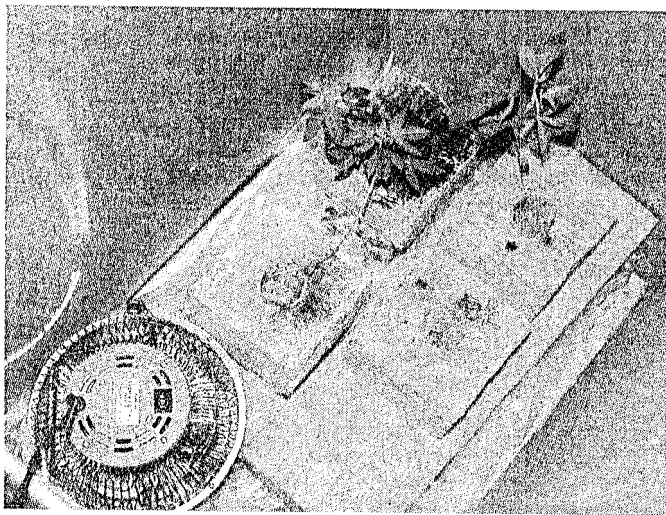
大麻と著者

立ち向かう人たち

＜中＞

夫は薬物依存症が原因で死亡。「押しつぶされそう」な人生の重さに覺せい剤に手を出した女性。茨城ダルク家族会のセミナーで中学三年生のときにシンナーを吸ったことから薬物依存症になった女性が体験を語りました。

夫は薬物依存症が原因で死亡。たことを見てしまったことからでした。
夜遊びと外泊
寂しさを覚え、その出来事から親に反抗するようになりまして。
夜遊びと外泊を繰り返しました。そんなときに知り合った彼と十八歳のときに結婚しました。子どもが二人できました。彼は、覺せい剤中毒で、二十一歳のときに逮捕さ



逮捕された大学生が室内で栽培していた大麻＝関東信越厚生局麻薬取締部提供

れました。
「薬をやめるなら一緒にいたい」と、彼が刑務所から出てくるのを待ちました。彼は、薬をやめて私のところに来てくれましたが、体はポロポロ。三十二歳で亡くなりました。彼が亡くなり悲しみと

苦しみ、不安でいっぱいになりました。子育てと仕事に押しつぶされそうになりました。「死にたい」。そんな思いに駆られたときに覺せい剤と再会してしまいました。

仲間と歩もう

全国薬物依存症者家族連合会事務局長で茨城ダルク代表の岩井喜代仁さんの話
本人の手ではどうにも解決できない薬物依存症という病気がかかった若者たちが増え続けています。国や行政は、取り締まりはするものの、病气として認めずに医療の手当てはしていません。

り、不登校…。想像を絶するほど子どもを守る家族の機能が破壊されています。
でも「世の中が悪い」では済みません。若者たち。聞いてほしい。一回でも大麻など薬物を使っ

子どもに感謝

ダルクとつながって薬物依存症からの回復の道歩んでいるところですよ。
施設につながって分かったことは、自分のやってきたことの重大さです。人の優しさに気づか

若者が薬物に手を出す背景には、家族の核が壊されている状況があります。いじめ、引きこも

仲間とともに依存症から回復するための勉強をして、一緒に歩もう。いつでも待っています。
仲間とともに依存症から回復するための勉強をして、一緒に歩もう。いつでも待っています。私を支えてくれた子どもたちに感謝しています。ようやく私も笑えるようになりました。

「助けて」「と言えれば

た。早く捕まりたいと思いましたが、「助けてほしい」と言うことができればやめられたのでしょうか、「子どもがいるの。逮捕されたらどうしよう」と、こわくって言えませんでした。

(つづく)